

手練

S H U R E N

第 17 号





表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目 次

■主任文化財屋根葺士 検定会 実施される	2
■主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催.....	2
■令和3年度 檜皮採取者(原皮師) 中級研修 終わる	3
■令和3年度 檜皮採取技術査定会	4
■令和3年度 茅葺中級研修	5
■令和3年度 文化財研修会	11
■準会員 名簿	13

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・柿葺【第20回】●令和3年10月25日(月)～10月30日(土) / 1名(檜皮葺師)

本年度は受験者1名となり、檜皮葺での受験となりました。苦勞して作製していたように思いますが、全体的な屋根葺としては及第点となりました。しかしながら、座学に関しては大きく減点項目があり、責任者としては間違っただけでなく、箇所での減点を重ねたため、残念ながら不合格とさせていただきます。外部検定員の間からも、実技の部分では不合格をつけた方はおらず、内部検定員及び採点の結果と同じ結果でした。次年度、座学

[会場●山南ふるさと文化財の森センター]
部分については受験し直してほしいとしました。

これからの職人、責任者には、説明する能力や積算する能力は不可欠となっていくものと思われます。そのため、図示や算定基礎はしっかりと身に付けてほしいと思います。今後も、当会としては、このような検定会を通じて技術者の資質向上に努めてまいります。

最後になりましたが、ご協力いただきました皆様に紙面を借りて御礼申し上げます。



檜皮実技



査定の様子

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

今年度も、京都女子大学より鶴岡典慶教授を講師にお迎えし、檜皮葺19名の更新講習会を行いました。例年続けてきている更新講習会ですが、本年度についても大規模感染症の影響が収まらず、疾病を原因として講習会に参加できない人員が出る事となりました。その大変な社会状況の中でも京都研修センターまで足を運んでいただき、更新講習に参加してくれた皆様には感謝を申し上げます。

講習参加者が講義に耳を傾け、特に効率といった点について関心を持って聞いていたように思います。日当の単価とコストという点については主任技術者がどのように感じ取っていたのか興味深く思います。日頃コストというところは経営者に任せて、現場の責任者が考える

[会場●京都市文化財建造物保存技術研修センター]

ことはあまりないように思われますが、自分たちが行っている工事がどのような原価管理をしているのかということ、少しでも気に留めていただくことができたのではないのでしょうか。保存会としても上記を含め、主任技術者のさらなる意識向上のため、講習会を通じて新しい知見を身に付けられるように努力していきたいと思えます。

ただ、担当理事としては日当単価と実際の賃金にはかなりの乖離があるのは各保存会会員各社当然の理屈であることを、もっと発注者側には理解していただかないと、お互いに齟齬が生まれたままであるように感じられました。このあたりは今後の課題として説明できるように心掛けたいと思えます。

令和3年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる

令和3年度の檜皮採取中級研修は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当初の予定を変更し『新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン』『新型コロナウイルス感染予防実施マニュアル』に基づき、10月12日より開始しました。

本年度は、三上山国有林、増位山国有林、賤母国有林、吉川八幡宮、大又国有林、妙法山国有林、高塚古墳、城山国有林にて研修を行いました。1クール2週間で入山し、限られた時間の中での作業になります。

研修に参加した中級研修生19名は、2～3クールお互いを高め合いながら技術の向上に取り組み、2月4日に全日程を終了しました。

コロナ禍の先を見通しづらい状況ではありますが、技術の継承、研鑽に励み、研修を進めてまいります。

日程変更など迅速に対応くださった国有林管理署の皆様、吉川八幡宮の皆様、採取事業に関わるすべての皆様に感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



バランスをとりながらヘラ入れ



1丸単位に再結束された丸皮



檜皮結束の切断

令和3年度 檜皮採取技術査定会

期 日 ● 令和3年10月26日(火)・27日(水)
会 場 ● 吉川八幡宮
(岡山県加賀郡吉備中央町吉川3932)

檜皮採取技術査定会は、檜皮採取研修生の日頃の研修成果を査定するとともに、技術の継承と向上を目的として毎年行っております。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言発出のため中止しております。

当日は、吉川八幡宮宮司様をはじめ、保存会会長、保存会理事、派遣事業所会員が参加し、総勢13名で行い

ました。査定を受ける研修生は5名で、査定員は指導員2名と指導補助員1名の合計3名で行いました。研修生は日頃の成果を存分に発揮し、採取作業にあたりました。1日目の午後から作業に入り、2日目の正午には査定会は終了しました。査定員の採点を元に、日頃の研修の年間実績考課値を加味して担当役員が技術ランクを決定、後日派遣事業所に通知いたします。今後も採取研修に真摯に取り組んでくれることを期待します。

最後に、今回査定会の開催にご協力いただきました吉川八幡宮の皆様に心より感謝申し上げます。



ヘラを使って慎重に作業する研修生



技術を見極める査定員



檜皮の結束や切断をする研修生

令和3年度 茅葺中級研修

今年度の茅葺中級研修では、10月4日より京都市指定の文化財 奥溪家住宅 長屋門の葺き替え、11月15日より滋賀県草津市 NPO法人宅老所「心」の母屋ヨシ葺きの葺き替え、1月25日より静岡県伊東市大室山での茅刈りを行いました。

研修では当保存会 長野直人準会員・山田雅史正会員・熊谷秋雄正会員がそれぞれ指導にあたりました。研修生は京都をはじめ、大阪、宮城からの参加となりました。京都の研修生に対して関西の屋根の研修という趣になりましたが、京都と滋賀近郊であっても地方性があり、違

いの多いことには驚きがあり、茅葺の多様性を再確認できたことと思います。

大室山での茅刈りは2年振りの実施となり、地域の方々との連携を深められ、今後さらに継続していただける活動として進めていけることと思います。茅の質も良く、良質な茅束を採取することができました。

本年度も昨年同様、コロナ禍での活動となり様々な配慮が必要でしたが、葺き替え研修2回、茅刈り研修1回をそれぞれ行うことができましたこと、各関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。



熱心に取り組む研修生たち



新たな茅を葺き上げる

奥溪家住宅 長屋門 茅葺



完成した奥溪家住宅 長屋門



入母屋根 妻の刈り込み



表面を揃える刈り込み

NPO 法人宅老所「心」
ヨシ葺



完成した NPO 法人宅老所「心」

大室山
茅刈り



刈り取られた茅を前に



茅を抱え鎌で切る



ある程度の量になったら紐で束ねる

指導員からの感想

指導員としての喜びを 感じながら

指導員 長野 直人

この度、京都市にある奥溪家住宅の研修に指導員として参加させていただきました。

研修をさせていただいた長屋門は、住宅密集地の中にあるにも関わらず、現在に至るまで時代に流されることなくそこにあり続けたことに感動し、所有者である奥溪様に敬服いたしました。そして、そのような建物に関わらせていただくことに喜びと同時に、指導員として研修を遂行する責任の重さも感じました。

屋根は垂木の取り換え、そして野地補修から始まり、全面葺き替えでは無かったので新規の隅部・平部と合わせて既存部分との取り合いがあり、また新規の棟を傾いた既存の棟に合わせて作らなければいけないなど、内容がとても多岐にわたりました。広くない工事範囲でしたので、研修生にはそれぞれ違う部位を交代で担当してもらいましたが、その度にそこに合わせた材料や納め方を技量に合わせて指導することは、中々骨の折れる作業でした。

指導は大変なことが多かったのですが、研修生は皆とても真面目に、そして熱心に取り組んでくれました。疑問に思ったことは積極的に聞いてきたり、研修生同士で相談したり、また休憩中はそれぞれの事業所での経験談を話したりと、とても雰囲気良く、指導にも熱が入る研修でした。

この研修で嬉しかったことは、研修生の一生懸命さに所有者である奥溪様も感心して下さり、出来上がった屋根に喜んでくださったことです。奥溪様は合間に奥溪家や建物の歴史、維持保存の大変さ、自身の仕事について等、様々なお話をしてくださり、研修生はもちろん、私もとても勉強になりました。この研修では研修生、指導員、所有者がとても良好に、そして濃密に関わりあいながら研修を行えたことがとても良かったと感じております。

最後になりますがこのような出会いや機会を与えてくださった保存会にとっても感謝いたしております。ありがとうございました。

地域の葺き方を習得し、 自分の財産に

指導員 山田 雅史

今年度、草津市での葺き替え、大室山での茅刈りの指導を担当させていただきました。

草津では、入母屋型ヨシ葺で、滋賀県においては一般的な形式の屋根の葺き替えの研修となりました。滋賀県全域がヨシ葺の地域という訳ではなく、山間部では山茅であるススキ、平野部ではヨシが用いられます。私自身、修行時代は滋賀に多く呼んでいただき、そこで得た技術を後進に伝えることができ、嬉しく思います。

滋賀のヨシ葺で特徴的なのは、まず「作り茅」です。役物のみならず平葺まで全てを「作り茅」で行います。これは伊勢神宮にも共通する葺き方です。一般的に「勘」を必要とする、積層に敷き並べる葺き方に比べ、加減の情報が得られやすいこの葺き方を自分の葺き方の一つとして加えられたのなら、研修生にとっては技術という財産を増やせたのではないのでしょうか。

大室山の茅刈りにつきましても、山焼きを含め山頂リフト等観光施設として知られる場所での茅刈りであり、遊びに訪れる方々からの視線もあり、茅葺きを知っていただく良い機会であると実感しました。通りがかりの年配の方々が、「昔はこの辺にも茅葺があったよ」と懐かしそうに語る様子は、嬉しそうであったように思います。

刈り場は山裾の扇状になった場所で、さほど広くはないのですが、細く素性の良い茅が密に生えており、良い茅束が作れます。今後も山の観光と共に茅葺の認知、茅刈りの重要性を発信する場として大室山の茅刈りの存続ができますことを願っています。

研修生からの感想

引き継いでいきたい 大室山の茅刈り

指導員 熊谷 秋雄

今回、初めて全国社寺等屋根工事技術保存会主催の大室山での茅刈研修に参加させていただきました。

大室山は静岡県伊東市にある標高580mの火山であり、富士箱根伊豆国立公園内にあります。毎年2月第2日曜日に山焼きが行われています。昔は大室山で採れた茅は、屋根を葺いたり牛馬のエサなどに利用されてきましたが、現在は、山の保全を目的として始めた行事が今では伊東の春の風物詩として定着し、大事な観光資源になっています。毎年火入れをすることによって、山の麓に良質なススキが茂っています。ここの刈り場と大室山を管理する「池総有財産管理会」様から無償でお借りして、2年前から茅刈り研修を実施していると聞いています。

研修生の方々は、熱心に茅刈りに励んでいました。私たちが、普段から地元宮城で使用している大型の茅刈り鎌を研修生に貸し出したところ、研修生にとっては使い慣れない道具でしたが、地方によって異なる道具の特性を理解し、徐々に手際よく刈ってくれたように思います。研修生の方々はご苦労様でした。

山焼きと茅刈りのサイクルの中、大室山に人の手が加わり続けることで、その独特な自然景観が保たれていくことは、日本の里山文化にも通じるとても大切な生業だと思います。その一端を体感できるこの研修は、とても貴重な機会でした。来年も大室山での茅刈り研修を継続していきたいと思います。伊東のシンボリック存在で、多くの人を惹きつける大室山だからこそ、今回の研修の意義や良さを、自分たちだけで噛み締めるのではなく、より多くの人に知ってもらえる発信の場になってほしいと感じました。

学ぶべきものが多かった 有意義な研修

研修生 金沢 翔太

茅葺研修は、滋賀県草津市のNPO法人宅老所「心」での全面葺き替え。期間は令和3年11月15日から12月19日までで、講師は山城茅葺の山田さん、受講生は山城茅葺の小野さん、美山茅葺の茂原さん。熊谷産業での業務の関係上、茅葺全面葺き替えの現場に解体から仕上げまでいたことはなかったため、今回は改めて全ての工程を通して行うことができ、大変勉強になりました。

屋根材はヨシ。熊谷産業ではヨシを扱うことが多く、ある程度慣れたつもりでいましたが、初めて琵琶湖のヨシを扱う機会となり、北上川のヨシとの違いに戸惑うこともありました。現場ではなかなか聞くことのできない作業上の意味や道具の扱いについても学べる機会となりました。

また、隅、葺甲といった役物に取り組めたことを今後に活かしていきたいと思います。材料の違いについてもそうですが、仕上げ、特に棟の納まりの違いが東北や関東とは違い、これも勉強になりました。風土や気候条件もあるのでしょうか、その土地土地での職人氣質もあるのだらうと思うと、興味深いものでした。

茅葺についての技術はもちろん、他の会社の方と交流でき、大変有意義な研修となりました。このような研修に参加する機会を作っていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

研修生からの感想

伝統を守り伝える 担い手でありたい

研修生 小野 晃穂

技術研修では、屋根の解体、下地の補強、軒付け、平葺き、棟積み、刈り込み等の必要な技術や工程を学び、茅刈研修では、屋根に必要な茅場で茅刈りを学びました。また、実際に現場で携わる中で、地域ごとに違った茅葺の文化や特性を学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

まず、京都の奥溪家住宅では、長屋門の屋根に茅が材料として利用されていました。滋賀の宅老所では、琵琶湖の湖畔でヨシ刈りが盛んなこともあり、ヨシが屋根の材料として使用されていました。大室山は昔から山全域が茅場となって地域の貴重な生活資源だったことなど、地域の方にお聞きして知ることができました。古くより、それぞれの土地にある茅でその土地に合った方法で茅葺屋根は作られており、今後の将来もこの日本の歴史を継承していく重要性を再確認し、日本の伝統を守り、伝承していく一員でありたいと強く実感しました。

また、今回の研修で、他の事業者とも交流を持つことができ、とても刺激になりました。今後も仲間と交流を続け、切磋琢磨し、自身のモチベーションの一つにしていきたいと思います。研修で得た技術や知識を事業所に持ち帰り、自身のスキルに磨きを掛け、日々精進し茅葺きを通じて社会貢献していきたい所存です。

研修会において丁寧にご指導いただいた講師の方々をはじめ、関係各位に心より感謝しております。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

仕上げまでの作業が経験でき、 自信に

研修生 茂原 教蔵

屋根葺研修では、解体から刈り込み、仕上げの一連の作業を通して経験できたことで、これまで断片的にやってきた作業のつながりへの理解が深まりました。また、一つの家屋を自分の手で完成させたということが自信になりました。

疑問に感じた点をすぐに尋ね、それに対する指導時間がしっかり確保されている研修という場合は、修行している身としてはとても貴重な時間でありました。人材育成の点から見ても、作業を終始理解した上で現場に臨むので、効率良く技術を身に付けることができ、必要不可欠であると思えました。また、茅刈り研修では、茅を刈ってくださる方々の苦勞を身をもって感じる事ができました。

もちろん真っ直ぐな茅が屋根を葺く上では使いやすいのですが、質の良い茅だけを刈るのはとても手間が要り、数量も限られます。多少曲がった茅でも上手く葺く技術を身に付けなければならないと感じました。茅を扱う身として、茅刈りは必須であり、広くには茅場の維持、環境の保全にも関わることができる素晴らしい役割を担っているのだと思います。

この度は、貴重な研修を開催していただきありがとうございます。とうございます。

丁寧で分かりやすい 指導に感謝

研修生 富田 啓介

この度、研修に参加させていただき、ありがとうございました。茅葺の工程は多くの細かい作業を繰り返して少しずつ棟側に上がっていきますが、作業の一つひとつに理屈があり、身体が自然と動き、また、相手に説明ができるようになるまで噛み砕かなければ一つの作業を理解したことにはならないなと思いました。材料には個体差があり、同じことをするにも時間が掛かったり失敗してしまったりと、茅葺の難しさ、奥深さと共に面白さも感じることができました。

指導員の長野さんの説明は丁寧で分かりやすく、また、話も面白くてとても勉強になりました。長野さんに感謝いたします。

研修生2名とは今回初めてお会いしましたが、相手の作業の進み具合により材料や道具の段取りをしなければなりません。使いやすいように相手と呼吸を合わせて進めていくといった意味では、コミュニケーション能力の点でも勉強になりました。

この研修で教えていただいたことは、直ぐに習得できることではなく、繰り返し作業することで自分のものになると思います。これをステップに活躍できるよう努力する次第です。

茅に対する思いに 変化が

研修生 余宮 祥平

今回の茅刈り研修を終えて、普段何気なく使っていた茅の有り難みに改めて気付かされました。1日約8時間山に入って茅を刈り、収穫できる茅の量は30～40束程度。一つの現場に使う茅の量から比べると到底足りなく、一体どれほどの人が何日かけて用意してくれた茅なのか…。今までも大切に使っているつもりではいましたが、この研修を終えて自分が実際に体験し、その苦労を体感したことによって、より一層茅の一本も無下にすることはできないなと思いました。一流の茅葺き職人になるためには技術もさることながら、茅に対するそういったような思いも必要なのではないかと思いました。これからもこの茅刈り研修を続けて広がっていけばいいなと思いました。



大室山 指導員と研修生

令和3年度 文化財研修会

日 時 ● 令和3年12月3日(金) 13:00～16:00
会 場 ● 延暦寺 国宝 根本中堂 大改修工事現場、
延暦寺会館
(滋賀県大津市坂本本町 4220)



延暦寺 根本中堂 募股彫刻

日本でも名高い比叡山延暦寺 国宝「根本中堂」の大改修工事現場を見学させていただき、研修会を行いました。正・準会員を対象にしており、コロナ禍で移動しにくい中、約60名の参加がありました。生涯において一度見られるか見られないかの貴重な現場と認識しています。本当に感無量でありました。

はじめに、延暦寺副執行 総務部長 小嶋 覚俊様より「延暦寺について」のお話をいただきました。「これだけの施設を守り続けていくのは、並大抵のことではございません」との言葉がとても印象的でした。加えて、「70人の僧、200名の職員で運営」と聞いただけで、いかにここが日本の代表であるかがわかります。伝統＝電灯であり、明かりをともすこと。「一隅を照らす」たくさんの明かりが集まって、100、200年と繋がれてきたことがわかります。今自分たちが何をなすべきか。冒頭から、心に刺さる、大変意味深い考えさせられるお話でした。

次に、根本中堂の修理の概要を滋賀県文化スポーツ部 文化財保護課 課長補佐 菅原 和之様よりご説明いただきました。

また、文化財講義として、岡山理科大学 建築歴史文化研究センター長・特担教授 江面 嗣人様より「文化財保護における創造的活用～文化財保護法の目的について考える～」と題してお話しいただきました。「文化財保護法とは、国民の文化的向上に資する…」と、つまり価値ある人間をどう作っていくか？…深すぎて、この問題は一生涯の課題だと感じました。「新劇」と「能」を例えに、「新劇は直前まで練習しているが、能は練習しない。古い伝統は一人の人間ではとうてい到達できない、極められない。だからこそ日々が学びである」と。多くの参加者の心に響いたことと思います。

その後、2班に分かれ、修理工事の現場を文化財保護課の担当職員の方の説明を受けながら回りました。

半日の限られた時間でしたが、考えることは無数にあり、本当に有意義な時間となりました。単なる建物の維持管理だけではなく、伝統、歴史を引き継ぐ為には、われわれ技術者だけでなく、多くの人々に支えられながら今があるのだと、ひしひしと感じました。今後ますます精進してまいります。

研 修 会 「延暦寺会館 比叡」

開 会 挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 大野 浩二

講 話 ● 延暦寺 副執行 総務部長 小嶋 覚俊 様
題目「延暦寺について」

概 要 説 明 ● 滋賀県文化スポーツ部 文化財保護課 課長補佐 菅原 和之 様
「国宝 根本中堂 修理概要」

文化財講義 ● 岡山理科大学 建築歴史文化研究センター長・特担教授 江面 嗣人 様
題目「文化財保護における創造的活用 ～文化財保護法の目的について考える～」

閉 会 挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 執行理事 友井 辰哉

見 学 会 「延暦寺 国宝 根本中堂 大改修工事現場」



廻廊の屋根

今年もこのような研修会を行うことができ、現場を提供いただいた延暦寺様、滋賀県文化スポーツ課、元請け各業者の皆様、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



興味深く眺める参加者



屋根の高さから見学する参加者



延暦寺 副執行
総務部長 小鴨 寛俊様



滋賀県文化スポーツ部
文化財保護課
課長補佐 菅原 和之様



岡山理科大学
建築歴史文化研究センター長
特担教授 江面 嗣人様



工事現場前に集合

■ 準会員

No.	氏名	職 種
1	青木 照幸	檜皮葺
2	青山 亨	檜皮葺・柿葺
3	朝野 達也	檜皮葺・柿葺
4	芦田 健太	檜皮葺・柿葺
5	蘆田 祐明	檜皮葺・柿葺
6	足立 健一	檜皮葺・柿葺
7	足立 大茂	檜皮葺・柿葺
8	安部 悟司	柿葺 屋根板製作
9	飯野 映稚	檜皮葺・柿葺
10	池田 陽輔	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
11	石井 潤	檜皮葺・柿葺
12	石川 良三	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
13	石塚 健一	竹釘製作
14	井関 善晴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
15	市原 健	檜皮葺・柿葺
16	一色 律男	檜皮葺・柿葺
17	伊藤 貴弘	檜皮葺・柿葺
18	伊藤 延行	檜皮葺・柿葺
19	伊藤 元輝	檜皮採取
20	伊東 洋平	茅葺
21	井上 裕貴	檜皮採取
22	居原田 浩樹	檜皮葺・柿葺
23	入江 匠	檜皮葺・柿葺
24	岩崎 正	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
25	上野 英樹	茅葺
26	大石 薫利	檜皮葺・柿葺
27	大西 康純	茅葺
28	大野 隼矢	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
29	緒方 伸也	檜皮葺
30	岡野 史和	檜皮葺・柿葺
31	岡本 葉澄	檜皮葺・柿葺
32	奥田 治郎	檜皮葺・柿葺
33	奥田 正博	檜皮葺・柿葺
34	尾崎 良助	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
35	小野 晃穂	茅葺
36	方山 和也	檜皮葺・柿葺
37	勝部 哲也	檜皮葺・柿葺
38	包國 眞匠	檜皮葺・柿葺
39	金子 英生	檜皮葺・柿葺
40	嘉本 洋士	檜皮葺・柿葺
41	川瀬 皆人	檜皮葺・柿葺
42	河野 修二郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
43	川原メデスエリオシイチ	茅葺
44	菊池 保	茅葺
45	岸田 智太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
46	岸田 直彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
47	吉川 圭一	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
48	吉川 晋二	柿葺 屋根板製作
49	木戸 智裕	屋根板製作
50	木下 和也	檜皮葺・柿葺

No.	氏名	職 種
51	木下 真介	檜皮葺・柿葺
52	木村 健太	檜皮葺・柿葺
53	清田 幸臣	檜皮葺・柿葺
54	栗山 光博	屋根板製作
55	栗山 雄二	屋根板製作
56	栗山 芳博	屋根板製作
57	小池 一平	檜皮葺・柿葺
58	児島 真介	檜皮葺・柿葺
59	児玉 典史	茅葺
60	後藤 哲夫	檜皮採取
61	小西 康介	檜皮葺・柿葺
62	小西 繁信	檜皮葺・柿葺
63	小林 正之	茅葺
64	小原 一樹	檜皮葺・柿葺
65	駒 宏樹	茅葺
66	近藤 竜太	檜皮採取
67	酒井 慶伍	茅葺
68	寒河江 清人	檜皮葺・柿葺
69	佐々木 綾子	檜皮葺
70	佐々木 孝則	茅葺
71	澤田 昌己	檜皮葺・柿葺
72	塩田 隆司	檜皮葺・柿葺
73	品川 琉心	檜皮葺・柿葺
74	須賀 均	檜皮採取
75	須賀 将志	檜皮葺・柿葺
76	杉井 喜雄	檜皮葺・柿葺
77	杉谷 功	檜皮葺・柿葺
78	高木 諒	屋根板製作
79	大下 倉優	茅葺
80	高島 優雅	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
81	高平 勝也	檜皮葺・柿葺
82	竹森 暢哉	檜皮葺・柿葺
83	武山 貞秋	茅葺
84	立木 覚士	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
85	立脇 裕也	茅葺
86	田中 順也	茅葺
87	田中 慎一	檜皮葺
88	田中 智紗衣	管 理
89	田中 智也	管 理
90	寺田 美乃里	檜皮葺・柿葺
91	戸梶 憲幸	檜皮葺・柿葺
92	富田 啓介	茅葺
93	永瀬 慶祐	檜皮葺・柿葺
94	中西 純一	茅葺
95	中西 祥也	檜皮葺・柿葺
96	長野 直人	茅葺
97	永原 光敬	檜皮葺・柿葺
98	中村 裕司	檜皮葺・柿葺
99	西 裕之	檜皮葺・柿葺
100	西谷 将太	檜皮葺・柿葺 檜皮採取

[五十音順]

No.	氏 名	職 種
101	西堀大樹	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
102	西村聡央	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
103	西村信生	檜皮茸・柿茸
104	沼澤修一	檜皮茸・柿茸
105	野谷嘉邦	檜皮茸・柿茸
106	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅 茸
107	橋本浩太郎	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
108	東友一	檜皮茸・柿茸
109	檜篤広	檜皮茸・柿茸
110	平田将大	檜皮茸・柿茸
111	平野健太郎	檜皮茸・柿茸
112	平野裕也	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
113	廣内翔	檜皮茸・柿茸
114	深本英昭	檜皮茸・柿茸
115	福岡亮太	檜皮採取
116	藤中竜也	檜皮茸・柿茸
117	藤原諒	檜皮茸・柿茸
118	測上大輔	檜皮茸・柿茸
119	古川友喜	檜皮茸・柿茸
120	細見和希	檜皮茸・柿茸
121	細見知憲	檜皮茸・柿茸
122	細見裕	檜皮茸・柿茸
123	堀内博樹	檜皮茸・柿茸
124	堀江栄行	屋根板製作
125	本多亮貴	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
126	毎熊徳満	檜皮茸
127	横原孝宜	檜皮茸・柿茸
128	松田哲也	檜皮茸・柿茸 茅茸
129	松村省弥	檜皮茸・柿茸
130	松村純孝	檜皮茸・柿茸
131	松村有記	檜皮茸・柿茸
132	三上昭信	茅 茸
133	三上直	茅 茸
134	道繁康	檜皮茸・柿茸
135	三ツ出俊平	檜皮茸・柿茸
136	緑川幹雄	檜皮茸・柿茸
137	峰地幹太	檜皮茸・柿茸
138	宮西寛	檜皮茸
139	向田学	檜皮茸・柿茸
140	村岡伸康	檜皮茸 檜皮採取
141	村上章浩	檜皮茸・柿茸
142	村上貢章	檜皮茸・柿茸
143	森壯馬	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
144	森山淳希	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
145	矢野友則	檜皮茸・柿茸
146	山口成貴	檜皮茸・柿茸 茅茸
147	山口宗平	檜皮茸・柿茸
148	山崎堅登	檜皮茸・柿茸
149	山田勇生	檜皮茸・柿茸
150	湯田詔奎	茅 茸

No.	氏 名	職 種
151	湯野尚一郎	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
152	吉川一生	茅 茸
153	吉竹秀紀	檜皮採取
154	余宮祥平	茅 茸
155	和田琢男	檜皮茸・柿茸 檜皮採取
156	渡辺昌弘	茅 茸
157	渡部雄太	檜皮茸・柿茸

(2021.4.1 現在)

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

手
練

第 17 号

令和 4 年度 掲載

手練

S H U R E N

第 17 号

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会